

The Women's Studies Association of Japan

学会ニュース

日本女性学会
第145号 2019年2月

発行 日本女性学会
事務局 〒272-0023
千葉県市川市南八幡1-16-24
FAX 047-370-5051
E-mail toiwase@joseigakkai-jp.org
ウェブサイト
http://joseigakkai-jp.org/
頒価 一部300円

目次

次回大会予告……………	1	会員の著書紹介……………	3
個人研究発表・パネル報告・ ワークショップ募集について……………	1	会員の著書紹介募集……………	3
大会シンポジウム趣旨……………	2	日本女性学会2019年度 「少額研究活動支援」対象者募集……………	4
研究会のご案内……………	3	会費納入のお願い……………	4

次回大会予告

会場：一橋大学 国立キャンパス
東京都国立市中2丁目1番地

- JR中央線 国立駅下車南口から徒歩約10分
- JR南武線 谷保駅北口から徒歩約20分

* 宿泊は各自で手配して下さい。

詳しいアクセスは <http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/kunitachi.html> をご覧ください。

大会シンポジウム

男性性研究で何がみえてくるか

大会日程（予定）

1日目 6月15日（土）13時～16時30分（予定）

大会シンポジウム、その後総会、懇親会

2日目 6月16日（日）9時30分～15時（予定 昼食休憩を1時間ほど含みます）

個人研究発表、パネル報告、ワークショップ

個人研究発表・パネル報告・ワークショップ募集について

タイトルと発表の概要（200字程度）・発表のカテゴリー（個人研究発表、パネル報告、ワークショップのいずれか）・発表時に使用する機材（希望にそえない場合もあります）を記載して**3月5日（火）24時まで**に、ニュースレター担当の飯田祐子・古久保さくらまでメールでお知らせください。**受信トラブルを避けるため、兩名にお送り願います。**

ワークショップは、参加者との共同作業でテーマを発展させていく取り組みであり、個人研究発表とは性格の異なるものです。原則として複数の発表者がひとつの分科会全体（2時間程度）を担当していただきます。

個人研究発表はひとつの分科会で3、4人の方に発表をしていただきます。この組み合わせは通常応募状況によって幹事会で決め、司会も幹事会から出しますが、あらかじめ共通テーマの方々3名以上が集まり、共同でパ

ネル報告に応募していただくことも可能です。その場合、公平な各発表時間の配分と質問の時間を十分とることに留意いただき、テーマ、時間配分、司会者などを申込者が決めてからご応募ください。

発表の概要については、例年、大幅に超過している方が見受けられます。**200字程度に収まっているか、必ずご確認ください。**

■大学院生、非常勤講師等への旅費補助について

ワークショップ、個人研究発表をされる方で、学生、院生、OD等、常勤職についておられない方には、学会より旅費の補助を行います（総額10万円を人数と距離に応じて配分しますので、補助金額は未定です）。希望される方は、報告申込の際に、「旅費補助希望」と明記してください。

■大会におけるバリアフリー対応

大会におけるバリアフリー対応（手話通訳、文字通訳、配布物拡大コピー希望など）のご要望をおよせください。2月28日（木）までに、庶務担当の堀久美へお願いいたします。保育のご要望については、次号で詳細をご覧ください。

2019年度大会シンポジウム趣旨

男性性研究で何がみえてくるか

——「下駄を履いて」いること、セクシュアリティ、加害者性（仮）

シンポジスト：平山亮、江原由美子、すぎむらなおみ、田房永子（予定）

コーディネーター：北仲千里、千田有紀

男性学や男性性研究は、面白い。「ジェンダー問題って女性の問題なんでしょ」と思っているような人には、「いや、むしろ変わらなきゃいけないのは男性の社会で、マジョリティ男性も（こそ）男性性のジェンダーにがんじがらめで生きてるんだ」という提起は、まさに社会構造としてのジェンダーを考え始める土台を作ってくれる。また、「どうして男性たちはあんな態度をとるんだろう」と悩む女性たちにとって、「そうか、なーんだ、男のメンツの問題だったのか！哀れなものよ」と笑えるようになり、そこで対抗策も浮かんでくるというものだ。そして、男社会を変えるためには、男性性こそを分析し

て解体しなければならない。

しかし、その一方で、ジェンダー差別の問題には反応が悪い学生たちに「男も苦しいんだ」という男性学の議論だけやたら人気があるのも、ちょっと何か違うな、と思う。昨今は、サラリーマン社会やイクメン研究だけでなく、軍隊、介護、サブカルチャーや男子校や、歌うこと、禿げてること、性の悩みなど、様々な切り口での男性性研究が行われている。では、これからもっと深く掘り下げていきたい男性性研究とは、どういうものだろう。その糸口を、さぐりたい。

研究会のご案内 2019年大会シンポジウム プレ研究会

大会シンポジウムのシンポジストにおいでいただき、シンポジウムに向けた準備の研究会を開催します。どなたでも参加できます。資料等準備の都合上、参加希望者はなるべく事前に研究会担当幹事までメールでご連絡ください。

男性性研究で何がみえてくるか

登壇者：平山亮、江原由美子、すぎむらなおみ、田房永子（予定）

日時：2019年3月10日（日）15時～17時

場所：武蔵大学 江古田キャンパス 1号館 1403

所在地：武蔵大学 江古田キャンパス

■西武池袋線「江古田駅」より徒歩6分、「桜台駅」より徒歩8分

■都営大江戸線「新江古田駅」より徒歩7分

■西武有楽町線「新桜台駅」より徒歩5分

詳しいアクセスは、<https://www.hiroshima-u.ac.jp/tokyo/access> をご覧ください。

研究会担当 北仲千里

会員著書紹介

- 石井香江『電話交換手はなぜ「女の仕事」になったのか——技術とジェンダーの日独比較社会史』ミネルヴァ書房、2018年
- 岩淵宏子他（監修）『[新編] 日本女性文学全集 第6巻』六花出版、2018年
- 岩淵宏子他（監修）『[新編] 日本女性文学全集 第7巻』六花出版、2018年
- 木本喜美子（編著）『家族・地域のなかの女性と労働——共稼ぎ労働文化のもとで』明石書店、2018年

会員の著書紹介募集

以下のルールで会員のみなさまの著作を紹介します。掲載ご希望の方は、ニュースレター担当者までご連絡ください。

- ・ 会員が執筆・編集している単行本（分担執筆含む、雑誌をのぞく）
- ・ 1年以内の発行物
- ・ ご本人の申し出があったもの
- ・ 寄贈は条件としない
- ・ 寄贈いただいたもので会員の著作と判明したもの

ニュースレター担当

飯田祐子

日本女性学会 2019 年度 「少額研究活動支援」対象者募集のお知らせ

日本女性学会では、常勤ないし正規雇用契約をもたず、研究財源の確保に困難をかかえている会員の研究活動を支援することを目的に、「少額研究活動支援」を創設しました（2011 年度総会承認）。要件に該当する会員を対象に、研究活動支援金を支給します。下記の通り、2019 年度の支給対象者を募集します。ささやかな活動ですが、ぜひ活用ください。

記

内 容 対象者の日本女性学会の趣旨に沿った活動に対し、1 人あたり 3 万円の研究活動支援金を支給する

対 象 2019 年度 4 月 1 日以降に常勤ないし正規雇用契約をもたない会員 10 名

応募要件

- (1) 前年度までの会費が納入されていること
- (2) 日本女性学会会員の会費区分 6,000 円の者
- (3) 常勤ないし正規雇用契約下でないこと
- (4) 日本学術振興会特別研究員でないこと

ただし、本研究活動支援金の支給は一人あたり 3 回までとする

応募方法 日本女性学会ウェブサイトにも備える応募用紙により日本女性学会事務局宛郵送

応募締切 2019 年 4 月 24 日（水）着分まで

詳細および応募用紙 日本女性学会ウェブサイト「助成」のページ

<http://joseigakkai-jp.org/%e5%8a%a9%e6%88%90/>

会費納入のお願い

- 2018 年度の会費が未納の方は、どうぞお早めにお支払いください。会費納入のお願いと払込用紙はすでに送付しております。払込用紙をなくされた方は、郵便局備え付けの払込用紙をご利用のうえ、下記の納入先までお振込みください。

ゆうちょ銀行 振替口座

口座記号番号 00890-6-31306

加入者名 日本女性学会

- 日本女性学会の会費は年収スライド制（自己申告・税込み・該当年度予定収入）をとっております。
 - ・ 400 万円未満（無職・学生含む）：6,000 円
 - ・ 400 ～ 600 万円未満：8,000 円
 - ・ 600 万円以上：10,000 円
- 3 年以上会費を滞納されている方は退会とみなされます（日本女性学会幹事改選選挙実施規定第 4 条（3））。複数年滞納されている方は、過不足なくお支払いいただくためにもご自身の納入状況を事務局にご確認のうえ、どうか早急にお支払いください。
- 学会の運営は会員のみさんの会費によって成り立っております。重ねてのご協力をお願いいたします。